

新しい年に思う

同窓会会長 平 田 豊 (22回)

日本人にとって「お正月」は、ひとつの区切りの時である。色々としんどい事や不愉快な事があっても、新しい年には何となく良い事があるのではないかと、期待に胸が膨らむのが常である。

事実、日本の経済も少しは明るさを取り戻し、今年中にはデフレからの脱出宣言も出るのではないかという前向きの見通しも出て来た。経済人の新年賀詞交換会に於ても、今後の景気回復について強気の発言も数多く見られた。

一方、去年はイラクに明けイラクに暮れた一年であった。それに拉致問題が重なった。この二つの問題を契機として、日本人は戦後はじめて世界の中の日本を意識し出したのではないかと思う。イラクへの自衛隊の派遣を是とするか非とするかの議論の中で、複雑な世界情勢を踏まえて、自らの国をどう守って行くかを考えざるを得ない事態に立ち至ったのである。

その是非を問うて国民投票をすれば、恐らく50%の比率で賛否は分れるのではないかと思う。憲法9条の改正論議も恐らく同様であろう。敢て私見は差し控えるが、イラク問題は勿論、拉致疑惑に対して自主的に解決の糸口を見い出せない非力な日本を今後どうするのか、お互い最善の選択をしたいものである。

さて、政治経済の一般論は措くとして、わが甲陽同窓会の一年間の活動は、まずまず順調に推移した。

特筆すべき第一は、会員名簿の発刊である。ご承知の通り、平成14年母校創立85周年を記念しての名簿編纂であったが、15年12月に無事発刊の運びとなった。

名簿編纂委員会を立ち上げてから、約2年間に及ぶ事業であったが、その間数々の議論を重ねながら、外部の専門業者の力も借りて無事発刊の運びとなった。ご同慶の至りである。

特に2年間にわたっての委員の方々の負担は大変なものであったが、諸々の障害に耐えて立派な名簿を生み出す事が出来た。また、賛助広告についても、辰馬本家酒造株式会社をはじめとして多くの方々の協賛を得

ることが出来た。不況の続くなかで相当な負担をおかけすることになったが、母校を愛する志が茲に結実したものと考えたい。関係した各位に改めて心からお礼を申し上げる次第である。

ただ、仔細に検討すれば、錯誤による間違いの部分もあり、改善点に関する要望も出ているように思われる。このあと名簿編纂委員会に於て反省会を催し、次の機会にはより一層充実した同窓会名簿が発行出来るよう努力を重ねたいと考えている。

昨年度の会員総会も盛会であった。マスメディアの功罪についての講演並びに討論で、世論の形成に及ぼす影響の深さを改めて思い知らされた次第である。恒例の懇親会も楽しい雰囲気の中で、お互いの旧交を温め合う事が出来た。

会務運営委員会の活動も活発に行われた。財政の健全化、母校に対する貢献等、従来からのテーマを更に一層掘り下げて、少しずつではあるが成果を挙げつつあると自負している。

会報委員会の活動も地道ながら着実な歩みを見せてくれた。情報の交換やお互いの話の広場として、更に一層の充実を期したいものである。

ところで、今の教育界には問題が山積している。所謂「2006年問題」や「2009年問題」で、高校生や大学生の学力低下が心配されている。そのような環境の中で、わが甲陽学院は生徒の質的低下を来すことなく、私学の雄として発展を続けている。それがわれわれ同窓会の最大の誇りであるが、今後の引き続いての健闘を期したいものである。

甲
陽
だ
よ
り

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 平田 豊

印刷所

株式会社 小西印刷所

西宮市今津西浜町2番60号

TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木・金 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail :

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

甲陽ホームページ

<http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/>

今すぐご予約を!

甲陽学院同窓会会員のための

清 酒 白 鹿 酒 蔵 見 学 会

平成16年4月21日(水) 午後1時~4時

先着
50名限り

申し込みは、甲陽学院同窓会事務局まで

〒662-0096 西宮市角石町3-138

電話0798-71-4888 (月・水・木・金 10時~16時)

詳細は16頁に

学校だより

山田耕作直筆「甲陽中学校運動歌」楽譜、岡山で発見

「甲陽学院応援歌」として現在も体育祭や甲関戦で歌われている、「甲陽中学校運動歌」の山田耕作直筆楽譜が、岡山市で見つかった。昨年12月、山陽新聞社の太田隆之記者から本校校史資料室へ手紙が届いた。それによると、岡山市立政田小学校（岡山市政津）に伝わるシュタインベルク社（ドイツ・ベルリン）製のグランドピアノの修復保存問題の取材をしていると、戦前の甲陽中学校に在籍していた山崎勇雄氏が、武蔵野音楽学校を去って郷里に戻ったところ、政田小学校のピアノに心魅かれて無給の音楽講師をしていたことが判明した。山崎氏は1945年3月に戦死しているが、遺族の家で山田耕作直筆の「甲陽中学校運動歌」の楽譜が見つかったというのである。（P.3に掲載）

山崎氏は音楽家をめざして岡山の関西中学校から、1938年4月に甲陽中学校第4学年桃組に転入してきたが、恐らくは1941年3月に退学して武蔵野音楽学校に進学したと推定される。従って同氏の氏名は卒業生名簿には掲載されていない。楽譜が残された経過は不明であるが、岡山空襲を免れて山崎家で大切に保存されてきた。楽譜は現在、岡山市立政田民俗資料館にピアノや山崎氏に関わる資料と共に納められている。

楽譜の表紙には「甲陽中学校歌 山田耕作 々曲[㊞]」と記され、楽譜の題名は「甲陽中学校歌」の“歌”の文字を抹消して“運動歌”の文字が付け加えられている。山田耕作の楽譜の著作権を管理している日本楽劇協会の鑑定によれば、山田耕作の直筆に間違いなく、印鑑も本物とのことである。五線紙は「東京神田區表神保町 文

房堂」のものである。

「甲陽中学校運動歌」は4分の4拍子であるが、「甲陽学院応援歌」は4分の2拍子である。後者は採譜されたので、リズムとメロディーに相違が生じている。前者の楽譜（図版参照）で言えば、リズムは第2・第3・第8・第9・第13小節、メロディーは第11・第12・第15小節の箇所である。なお、日本楽劇協会によると山田耕作の手元には、この歌のもう一つ直筆の楽譜が残されているとのことなので、その楽譜と岡山で見つかった楽譜との間に相違点があるかどうか問い合わせ中である。

歌詞も第1番の「戦士」が「健児」、「尚武の旗」が「試練の旗」に、第2番の「勇士」が「健児」、「男児（だんじ）の心」が「男の児の心」と変わっている。3箇所は戦後になって軍国主義を連想させるとして変更されたのであろうか。最後の1箇所は歌われているうちに自然に変わっていったのであろう。

山田耕作は自分の名前を“耕作”と書いていたが、1930年12月に“耕作”と改名した。『学院史 資料篇 第一輯』（1987年）に、本学元教頭の中島久氏は、「応援歌」は1930年に作られたと記している。「甲陽中学校運動歌」の署名は“耕作”になっている。1931年に春秋社から刊行された『山田耕作全集』第7巻には、この歌は収録されていないが、現在同社から刊行中の『山田耕作作品全集』第10巻には収録されると思われる。

卒業生の皆さんに「甲陽中学校運動歌」についての情報をお願いしたい。

（校史資料室 山内英正）

学校だより

英 国 語 学 研 修

中学3年A組 吉村 充弘

中学3年（88回）のうち希望者約50名は昨夏7/20～8/5にイギリスへ語学研修に行ってきました。この研修では、人数の都合上、日本航空利用の班とルフトハンザドイツ航空（フランクフルト経由）利用の班にわかれしました。学校の所在地はロンドンの南方、ケント州にあるセブンオークスと同州のトンプリッジという都市です。双方ともに住宅地に位置し、閑静で学習に適した場所でした。話によると、普段は英国人の子供たちが通う学校だそうです、サマーヴァケーションの期間中、英会話学校のような組織が借り上げ、他国からの学生を受け入れるという形のものだそうです。今回お世話になったテムズ・バレー・カルチャー・センターという組織のほかにもたくさんの同じような組織が英語圏の諸外国に存在するようです。

この研修の内容はひたすら会話、会話、会話です。到着した日にレベルチェックのテストとオリエンテーションがありました。その後は、月曜日から金曜日までは午前中に授業があり、午後は木曜日を除いてアクティビティ（数種類の課外活動から自分で選択して50分×3タームやるというもの）をやるという日程で、木

曜日の午後にはロンドン市内見学に出かけました。日々の授業も自分のレベルより少し高めのクラスにいられるので、かなり充実しており、アクティビティではスポーツなどを通じて国際交流ができました。

学校にステイしている間の宿は前1週間がホームステイで後1週間がレジデンスでした。ホームステイ中はホストファミリーと親しくでき、英国の文化や生活というものがわかったという成果があり、レジデンスでは同じ学校にほかのグループで来ている同年代の人たち（西・仏・露・日）とロビー（みたいなところ）で話すことができました。レジデンス宿泊中にアドレス交換したスペインの人とはその後もメール交換をしています。

この研修についてまとめて考えると、気持ちとしてはやはり“楽しかった”が一番初めにくるのですが、客観的に見るととても密度の濃い時間であり、また、自分の活動範囲が阪神間から日本国内、いや、世界中へ広がったそんなポイントでもありました。自分の知識やスタンスを世界に広げていけるひとつの、しかし、大きなきっかけだったと思います。

甲陽中学校運動歌

山田耕作曲
山田在夫作歌

勇壮に・歯切れよく
[M.M.] = 120-138]

むーこのげん頭
チーヌノウラ
くもはトロ

かオ
ビヤケナリ
か
いな見
にもえ
し
ミ
タ
な
る
ち
コ
ほ
ロ

尚
一
武
の
は
た
の
ム
く
イ
れ
な
る
シ
ウ
も
リ
ゆ
力
る
わ
コ
レ
一
ら
ヒ
の
意
気
コ
二
み
り
ず
二
ヤ
テ
せ
一

学校だより

甲 陽 学 院 同 窓 生 講 演 会

2003年11月8日(土) 放課後

「報道の現場から」

ジャーナリスト
栗 野 仁 雄 (56回)

こんな場に呼ばれるOBは功成り名を遂げた人でしょうが僕は違いますよ。通信社を追われた、しがないジャーナリストです。でも一応、先輩なので少し偉そうに話しますね。

いよいよ明日が総選挙。マスコミは選挙に恐ろしいエネルギーと金をかけるんです。大学の合格発表みたいに、決まってから選管が「はい、当選者の発表です」ってやれば楽なのに。開票にあわせ、秒を争い当選確実を打ち合う。当確を間違えると政治部長のクビが飛ぶほどです。かつて北海道知事選で社会党の横路孝弘氏が自民党候補との接戦で初当選した。投票日は郡部だけ開票。大票田の札幌市が翌日回し。しかし讀賣新聞だけが乾坤一擲、「横路当選確実」と朝刊に打って出て勝った。当確に踏み切れなかった北海道新聞などはギャフン。候補の強い地盤、地域、組織など綿密な票読みをしなくてはできないんです。

岡山では当選間違いなしの候補が「100%開くまでは」と万歳をしない。聞くと「前回、落ちたのに万歳している写真が載って大恥かいた」とか。カメラマンは支局の暗室に戻って現像、電送するから時間がかかる。早く撮りたいから候補者に万歳をせかし、パンザーイ、パシャ。輪転機が回ってから落選判明。滑稽なことも起きるんですよ。

阪神間じゃわかりにくいけど、地方の人は政治家に大きく左右される。昨年、鈴木宗男関係でよく行った根室では「鈴木さんが駄目になれば、北村（直人）さんに」とか言う。別に政治家につかなくても、と思うが政治家に依存しないと仕事が来ない。そんな地方の議員が国の金を左右する。そういう意味でも日本の政治は地方が支配している。鈴木宗男はすごかった。最初の選挙で知人が皆無の鶴居村で若干票入った。彼は投票者を割り出し、「おかげで赤絨毯が踏めた」と感謝感激し、次はそこを拠点に大幅に票を伸ばすんです。

99年の臨海事故は偶然、東海村にいました。核燃料サイクル開発機構（旧動燃）の理事長のインタビューをしていた。終わった時、「JCOとかで爆発が何かあった、行ってくれ」で、バイクで現場に一番乗り。でも放射線は見えない。煙も炎もない。「理事長の原稿は」に「そんなものどうでもいい」といわれて「大事故なんだ」。ところが住民避難の直前、取材中止令が出た。僕が中性子を浴びたとの懸念でした。「病院へ行け」から「動燃に行け」で、ホールボディカウンターで計測してもらった。住民がガイガー管で調べられる様子がTVで報じられたが全く意味がない。動燃の知り合いに「大丈夫です」と中性子データも見せてもらった。会社も原子力事故の取材中止令は初めてで、しばらく大騒ぎでした。

ニュースに絶対価値はない。大ニュースもより大きなニュースに潰される。動燃はその三年前、爆発事故の虚偽報告で茨城県警が強制捜査に。僕ら取材陣は、「一面トップましがいなし」と構えた。だが当日、宿で早起きしTVをつけると戦争映画のようなニュースが飛び込んだ。特殊部隊が突入したペルーの人質解放劇でした。あわれ動燃のニュースは吹き飛び、各局の中継車は潮が引くように消えた。原稿はほとんど没でした。大ニュースは不思議に重なるが、逆に何もないとゴミのような事件も、でかでかと言われる。皆さん、悪いことするなら大きな事が起きている間ですよ。

90年頃、サハリン残留日本人の取材に入れ込んでいました。日本領だった南樺太が第二次大戦でソ連に占領された。政府は「日本人は全て引き揚げた」と無視したが、日ソの雪解けで往来可となり、ひっそり生きていたことがわかった。半世紀ぶりに祖国に帰った人達の姿に感動しボランティアに入り、本にもしました。極東ロシアは面白かった。国内線の機内食は、太ったスチュワーデスがビニール袋に入った鶏肉やパンを投げてよこす。

共産圏にはサービス観念がない。くれてやる、です。ウラジオストックの空港では滑走路の真ん中に下ろされ、必死にターミナルに走った。ホテルの出来事。デジェルナヤという、各階で客の鍵を預かるオバサンが「友達が泊まってるんだ」という韓国人の男たちを頑として部屋に行かせない。オバサンが電話を取ると自動小銃手にロシア兵が駆け上がってきた。仰天したが「これなら治安は完璧」。ところが翌日、交代した別のオバサンは「可愛い女の子いるわよ」とウインクし、娼婦の斡旋。混乱期の旧ソ連の象徴ですね。

運動部記者時代はアイスホッケーが主担当でしたが、阪神の檜山が東洋大の頃、東都大学野球を取材した。神宮球場の記者席から見ていても、打った瞬間に入るとわかる。他の打者とは角度や初速が違う。ドラフトでは「安売りしたくないですわ」と生意気だったな。

最後にアドバイス。「受験に関係ない」と興味を失うのは絶対に損です。僕は本好きで文学部に行きましたが、小学校からラジオ作りに凝り、アマチュア無線の免許も持っていた。半田付けは達人ですが理論がイマイチ。特に数学がひどい。山下先生なんて冷徹無比で（笑）30点以上くれたことない。落第しかけた時、運良く体育の試験が十八番の鉄棒。ぐいっと平均点を上げて助かった。今でも懸垂30回、車輪もできますよ。おっと脱線。とにかく理科系のこともかなりやったし、甲陽でやられたのが、科学の取材で役に立ちました。

皆さん、大変だけでも幅広い興味を持ち続けて下さいね。ご静聴ありがとうございます。（完）



リレー随想

— 第 5 回 —

西松龍一氏、山野井萬氏、堀建二氏、長村卓氏とリレーされてきましたご好評のリレー随想ですが、第5回目となる今回は長村氏からのご指名で当津武彦氏（21回）にご執筆いただきました。当津氏は、大阪大学・大阪樟蔭女子大学の名誉教授で、ご専門は美学・哲学。編集委員会からの依頼に「老哲学者の想い出話でも」とご快諾いただきました。

「老い」を語る

当津 武彦 (21回)

甲陽同窓会から会員名簿が届く。21期のところを早速開いてみる。なつかしい名前がならんでいる。あの頃の面影も浮んでくる。卒業のときは227名だったが、いまご健在の方々は92名、こしはみんな揃って満80歳を迎えることになる。改めて年月の経過を思い知らされる。

いろんな会合のお世話をしていると、「このところ老懶に打ち過ぎ」とか、「老醜さらすに値わずの心地にて」といった一文を添えての欠席の返信がめっきり多くなってきた。出席者の間でも、故人の想い出話や自分の持病のことなどが話題の大半を占める。「老い」がはっきりと自覚される年齢になってきている。

「老い」について語ろうとすると、どうしても寂寥感のようなものが先に立つ。「ひぐらしの鳴く山里の夕暮れは、風よりほかに訪う人もなし」という古歌はよく知られているが、現代でも「一日中言葉なき身の淋しさよ、君知り給え我も人の子」といった、ホーム在の方の作も新聞で拝見した。

古代ギリシアの文献をよんでいる日常のなかでも、この頃は「老い」を語る言葉が眼にとまるようになった。悲劇詩人のアイスキュロスには、「老いの身は葉なみも枯れた木のごとし、夢みるごとく杖ついてよろばうさまは幼な児さながら」という有名な一節がある。外観だけではない。だんだんかたくなになり、とっつきにくく、敬遠されがちなのも、老人共通のエートスであろうか。「老いは人を気難くさせ、いつも不機嫌の色を浮ばせる」とか、「老人は堪え性が全くない。かとなったが最後とどまるところを知らぬ」というのは、いかにも年寄り嫌いらしいエウリピデスの言葉である。

もちろん元気一杯な老人もいる。しかしこうした手合いには、「年寄りの冷水」といった言葉が浴びせられる。テオプラストスにはそうした事例が沢山挙げられている。「60歳を過ぎて、改めて詩歌を習おうという気を起す者」、「英雄神の祭礼になると、きまって少年向きの松明競技に出たがる輩」、「角力場に入って昔とった杵柄とばかり稽古に励み、結局は腰を痛めてしまう連中」など。

しかし昔とは事情がちがう。百歳を超えたセンテナリアンがわが国でも1万8千人。今世紀半ばには平均寿命も90歳まで延びるだろうとの予想もある。大きな書店に入るとそれがよくわかる。老人コーナーともいべき一角がちゃんと作られていて、日野原重明さんの『生き方上手』とか、山田風太郎氏の『死言状』、『半身棺桶』、『人間臨終図巻』などがずらりと並んでいる。他にも全国各

地の老人ホームの紹介や、その選び方まで伝授する手引書が各種取り揃えられ、どうやら大学受験なみに、ここでも「傾向と対策」が要るらしい。

こういう高齢時代なればこそ、「老い」を語るのに、もの淋しげな詠歎調よりも、意気軒昂たる語調の方が歓迎されるかもしれない。「老いたとて、学ぶのに遅すぎることはない」というのは、いかにもアイスキュロスらしいまじめな断章であるが、「老いてなお学ぶこといよいよ多し」というのも簡明直截にしていかに当代切っの智者らしいソロンの面目躍如である。他にもまた「老年は青年よりも正しい」とか、「老年と時の経過はすべてを教える」というソポクレスの寸言も、老成の智慧と自信にあふれ、晩年の作風とぴったり一致している。

老いてなお旺んな諸家のこうした言葉に出会うと、古代ギリシア人の平均寿命とか、代表的な長寿者についての情報などが気になり始める。平均寿命の方は残念ながら資料が欠くが、最長老の人物については定説があって、ギリシア七賢人の1人エピメニデスの名がすぐに挙げられる。プラトンの対話篇『法律』にもこの人のことが出ていて、ここでは前6世紀後半の人、クレタ島はクノソスの生れ、とされるが、155歳まで生きたといわれる他に、199歳説もあり、また299歳を計上する後代の学者の説もあるなど、やや神秘のヴェールに包まれているところがある。何しろ彼には洞窟のなかでしばしまどろむ間に、現世では57年が経過していたという伝承さえあり、ゲーテがこの素材を『エピメニデスの目覚め』（1814）というオペラに仕上げたという話も残っている。中国後漢の阮肇、劉晨の逸話や邯鄲の夢、御伽草紙の浦島太郎にもつながる説話である。

もう30年以上も前になるが、私もパリ第4大学での在外研修を終えての帰途に、このクレタ島に立寄ったことがあった。その景観の美しさは、ホメロスの『オデュッセイア』第19歌に歌われるとおりであったが、現地産のオリーブ油をふんだんに使った魚料理が大変おいしく、食事をしながら、エピメニデスの話を思い出し、この人の長寿の秘密もこの島のこうした食生活にあったのかもしれないと、想像を逞しくしたことであった。

哲学の源流を求め、古代ギリシア思想の研究を志して半世紀が過ぎた。いま尚、古典文献の茫洋たる海原、峻しくも高い研究書の連峰を前にして涯なき旅を続ける想いである。果してどこまでこの研究に迫りうるか。これからの日々は自分にとって、「老い」を語る多くの言葉を検証するための生体実験の場でもあるように思えてならない。

会員総会第1部講演

「現代放送界、うら話」

和田 省一 (46回生)

昨年夏の会員総会の第1部では「現代放送界、うら話」と題して、朝日放送常務取締役番組編成局長の和田省一氏(46回)にご講演をいただきました。その内容の一部をここに掲載いたします。

まず初めに、朝日放送で私がどういう番組に関わってきたかをご紹介しますと、まずラジオに入り「おはようパーソナリティー中村鋭一です」、その後「おはようパーソナリティー道上洋三です」を担当しました。それから「ABCヤングリクエスト」「日産ポップ対歌謡曲」、やしきたかじんさんの最初のベルト番組「聞けば効くほどやしきたかじん」といったラジオ番組を担当した後、報道に移りまして、「サンデープロジェクト」を89年の立ち上げから4年間、編集長とかプロデューサーという立場で関与しました。それからテレビ編成部に移り、「驚きももの木20世紀」「たけしの万物創世紀」「人気者で行こう」「運命のダダダダーン」、いま人気の「劇的!!大改造ビフォーアフター」というような番組に関わってきております。

❖「サンプロ」誕生の頃

紳助さんとは無名の頃からおつきあいがあるんですけれども、「サンデープロジェクト」に登場願ったのは僕の責任です。その2年前に「ニュースステーション」が始まりまして、久米宏さんはアナウンサー出身ですが当時はタレントで、それで成功した。そういう番組の後の番組ですので、話題性でいうと、それを上回る意外性がないといけない。お笑いタレントがニュースの司会をするということでないインパクトがない。キャスティングを進めたとき、田原総一朗さんというジャーナリストが既に決まっていたので、あとは視聴者の代表という立場で、反射神経のいい瞬発力のある反応ができる人がいいのではないかと、すると勘のいい島田紳助がいいのでは、という意味合いでお願いしたわけです。紳助さんの芸幅を広げる仕事ですからOKを頂けると思ったんですが、お願いに行ったら断られました。「今の僕の力では無理です。2年待ってください」。当時私は東京にいたんですが、難波のNGKの吉本本社まで飛んで行き「2年後にこんないい仕事が紳助さんにくるとは限りませんよ。今やって2年後に力を付けてもいいじゃないですか」と無理やり引き受けて頂きました。

メインが決まってよかったな、あとは本番を迎えるだけということになり、通常は番組のプロモーションをしますが、一番効果的なプロモーションは視聴率の非常に高い同系統の番組ですので、「サンプロ」は日曜日ですから2日前の金曜日の「ニュースステーション」に紳助さんにゲスト出演してもらい、僕はスタジオについていきました。紳助さんは久米さんの前に座って、久米さんがどう展開していくのか見ていました。そのとき問題

になっていたのが消費税で、大蔵省の担当の課長に電話で久米さんが鋭く突っ込んでいく。それを紳助さんは延々見えて、型通り「明後日から新番組サンデープロジェクトが始まります。よろしく」と手短かに喋っ

てスタジオを出て控室の廊下に来たところで紳助さんが突然「ニュースステーション」のスタッフの胸倉をつかんで壁に押し付け、暴言をはいて、「ほなさいなら」という言葉を残し、プイとテレビ朝日を出て行った。

2日前にこういうことになり非常に動転しまして、ただちに当時の吉本興業の責任者の、去年吉本を辞めた木村政雄さんに「なんとかしてください」と電話をしました。たまたま彼は東京に向かっている新幹線の中で、深夜12時すぎに「サンプロ」のスタッフルームに来てくれて、お話をしたら「わかりました」。それから2、3時間後に再び来て「解決しました」と言ってくれたときは胸をなでおろしました。

この時のことをずっと後になって紳助さんに聞きました。久米さんが手際よく消費税の問題で当事者の大蔵省の課長に突っ込んでいく、こんなことは自分にはできない、やっぱりあのときに断っておけばよかった、えらいことを引き受けてしまった、今これを降りるにはスキャンダルを起こして追放になるしかないと思い詰め、それで理不尽にもスタッフの胸倉をつかんだ。これでテレビ朝日も諦めてくれるだろうと、逃げたい一心でそういうことになってしまったようなんです。

紳助さんは、山林が中心ですが7千坪の家が能勢にあります、そこに蛍狩に来ませんかというので家族で呼ばれて行きました。蛍を見て帰ったところ、門の前に若い男の人が立っているの、何かと紳助さんが声をかけると「自殺をしようと思ってる、その前に紳助さんにどうしても逢いたくて」と言っている。われわれは先に部屋に戻り、紳助さんは彼と2人で話をして30分くらい後に戻ってきました。じっくり話し合ったところ「もう一度頑張ってみる」と明石まで自転車を漕いで帰ったと言うんです。こんなことは月に一回くらいあることで、人気者というのは裏では大変なことがいろいろあるんだな、責任感を持って対応しようとするとかたびれるものだなと思いました。

❖「テレポリティックスの光と影」

私がサンプロにいた頃、もっともよく番組に出た政治家は小泉純一郎さんでした。キャリアが長いわりにはポ



ストへの執着がなく、お金も集めないから派閥の領袖でもなく、しがらみもない。しかも長くその世界にいますから的確で鋭い論評ができるということで、今後の政局がどうなるのかを聞く人としては小泉さんが当時ベストでした。小泉さんが総裁になってから、小泉さんの秘書の飯島勲さんがサンプロのスタッフに「小泉はサンプロのおかげで総理になりました」と言ったということです。テレビの番組がそこまで政治に、意図的ではなく巧まざることとはいえ関わっていいのかという御批判は当然あると思います。

テレビ朝日の報道局長の椿さんが「自民党の単独政権を倒して細川政権をつくったのは田原と久米だ。これは田原・久米政権だ」と言ったとすっぱ抜かれて国会に証人喚問され職を追われるという「椿発言事件」がありました。私は椿さんに同情している面もあるのですが、若干の弁明の余地はあるとはいえ、テレビはそれだけ厳しく見られている、昔は許されたことが今は許されなくなっている、それぐらいテレビの持つ影響力は大きくなってきているということを、テレビに携わっている人間は肝に銘じないといけない。

広告費はGDPの1%というのが長く続いています。1%といえますと6兆円で、最近ではそのうちの34%ぐらいがテレビに投下される。以前は30%、31%だったテレビのシェアがじりじりと上がり、今やざっと2兆円がテレビの広告費として投下されている。圧倒的にシェアが大きいということは、それだけ多くの人々がテレビに影響されているということであり、それを利用しようとする人が出てきて当然で、その一つに政治がある。それに対してテレビは常に用心しておかなければいけない。

私がサンプロを担当しているとき青森朝日放送が開局しまして、青森を地盤にしている有力な政治家からサンプロに出たいと言ってこられました。その方ほどの有力者であれば選挙のことなんか気にしないでいいと思うのですが、テレビに出て発言することが政治家として極めて重要な要素になってきている。これは、テレビが浮かれているわけにはいかなくて、それだけ厳しくけじめをつけておかなくてはならないということだろうと思います。テレビ政治、テレビポリティックスの光と影といいますか、いかがわしいところもあれば功績もあるはずで、そういうときにもテレビに関わる人間は功績を誇ることは慎み、批判を謙虚に受けないといけないと思っております。

❖ 「拉致」スクープ

北朝鮮の拉致の問題が大きなニュースになっています。この拉致問題の発端は「サンデープロジェクト」にありました。

担当した記者は朝日放送の石高健次記者で、最近、長時間ドラマに実名で登場したり、「SPA」という雑誌に彼について書かれていたり、彼自身も数冊単行本を出したりしていますので、彼の名をご存知の方も多いと思います。その彼が、「サンデープロジェクト」のスタッフとして、91年に北朝鮮の核疑惑があるということで取材を始め、北朝鮮への帰国運動が悲劇を生んでいることを掴みました。当時は北朝鮮物を扱うのはタブーで、朝鮮

総連から激しい抗議を受けるだろうということでマスコミはやらなかったのですが、北朝鮮に帰った数万人が非常に辛い状態におかれている、どんなに朝鮮総連から抗議を受けようが事実の力で対抗できるから告発したいと言ってきました。プロデューサーとしては辛い判断を求められましたが、総連サイドの言い分をきちっと取るということを条件に放送しようということで踏み切りました。そのときの報道局長が椿さんで、僕が「やります」といったところ「わかった。総連のほうは俺に任せておけ」とバックアップしてくれました。

92年の1月か2月頃に「楽園から消えた人々」というタイトルで、北朝鮮帰国運動の悲惨な現実を、証言を基に生々しく放送しました。その後追加取材をしていくうちに、京都にいた北朝鮮の大物工作員、辛光洙(シン ガンス)が大阪の焼肉店員の原勲晃(ただあき)さんを拉致し、彼に成りすまして韓国に出入りしていたことを石高記者が突き止めていく。そして済州島にいる共犯者を追い詰めるという「闇の波濤から」というドキュメンタリー番組をつくりました。しかし、その後も拉致が厳然とあるのにもかかわらず一切報道されないということに行き当たり、それをコツコツと誰にも相手にされない中で取材を続けていくうちに横田めぐみさんの問題に行き当たるわけです。このときも後追い取材があっても当然なのにほとんどないまま、産経新聞とアエラと朝日放送だけの独走状態で放置されたまま数年たちました。そして去年9月17日の小泉訪朝、平壤会議で金正日が拉致を事実と認めたところで、この10年余りの虐げられた取材日・調査報道が事実であったことが認められました。

❖ 新聞VSテレビ

テレビは娯楽メディアに過ぎず、ジャーナリズムの世界では圧倒的にテレビより新聞が上だったんですが、これについて新聞記者自身が疑問を持ち始めたのが湾岸戦争のときでした。新聞は1日に2回しか出ませんが、テレビは戦争を生中継する。刻々事態が変わっていくのを生で伝える。新聞で活字になっていることが、生のテレビを見ますと、まったく違うことになっている。それが全世界を揺るがすような大事件だということで、娯楽では負けていたけれどジャーナリズムでもテレビに屈するのかという思いが強烈に新聞記者をとらえたようです。

当時僕は「サンデープロジェクト」をやっていたんですが、湾岸戦争が激しくなってきた地上戦に移る直前の12月から1月にかけての、わずか1ヶ月の間に5紙8人の新聞記者から取材を受けました。テーマはすべて「テレビは新聞を追い抜いたか」。その張本人のサンプロの担当者としてのコメントを聞かせて欲しいということでした。この話を田原総一郎さんにしたところ「それはまずいね、活字の嫉妬というか、かなり反撃を受けるんじゃないかな、復讐があるよ」と言われまして「そうかな」と思っていたところ、新聞がテレビを痛烈に批判する、テレビのスクandalを報じるということが、その後目立って増えていきます。新聞メディアがテレビメディアに対しての復讐というオーバーですが、当時テレビに身を置いて新聞の取材を受けた立場で実感としてそんなことを感じました。

会 務 報 告

平成15年4月1日から平成15年12月31日までの会務報告を申し上げます。本会務報告は、平成15年12月9日に開催しました理事会にてご報告・ご承認を得ました会務報告に、12月末日までの会務を補足しまして、ここにご報告を申し上げます。

1 はじめに

15年度の同窓会活動は、本年度の活動方針に従い、各委員会の主導により活発な展開をみせております。その活動内容につきましては、各委員会の活動報告の中で、ご報告をさせていただきます。

この委員会活動で、特に目立ちましたのは、若手層の同窓会活動への積極的な参加であります。今までは何か先輩に対する遠慮などがありまして、委員会などに参加されても発言が少なく、その動きも鈍いものがありました。この今までの傾向に対して、先輩諸氏からの意識としての誘導もあって、先輩・後輩の垣根も取り外され、ともに母校と同窓会の発展に寄与できる体制が、上手く円滑に整いつつあるようになりました。本年度の課題として、同窓会活動に若手層の人材発掘と育成がありますが、それも緒に就いた感を持つようになりました。

2 各委員会の活動状況について

1. 会報編集委員会

会報編集委員会は、今年7月に「甲陽だより」第68号を発行いたしました。印刷部数は11,000部で、同窓会員約1万人および母校の教職員・在校生に郵送・配布しております。

第68号の紙面は16頁で、その内容は下の通りでした。

- ・会長による巻頭言（「会員総会で語り合おう」）
- ・母校情報…同窓生講演会（44回生田辺征夫氏・49回生神谷徹氏）、人事異動、松井先生教育功労者表彰、サッカー部対灘定期戦50回記念大会、教育実習体験記
- ・リレー随想（21回長村卓氏）
- ・会員名簿編纂の案内
- ・会務報告
- ・会員だより、訃報、告知板
- ・会員総会の案内

4月の役員総会場で母校情報の充実を課題としておりましたが、この件についてはある程度実現できたと思っております。

なお、第68号発行に要した費用は下の通りです。

- ・印刷費…534,345円
- ・郵送費…793,504円
- ・封筒代…53,130円

今後、送料の節約をはかるために「メールサービス」

の利用なども検討したいと考えております。

次号第69号は3月の下旬の発行を予定しております。編集上のご意見・ご要望をお待ちしております。

2. 会員総会運営委員会

今年の会員総会は8月30日(土)14時～17時 ノボテル甲子園で

第1部「現代放送界、うら話」

講演 和田省一氏

(46回 朝日放送常務・番組編成局長)

対談 和田省一氏 vs 河内厚郎氏

(52回 関西文学編集長)

が、行われました。(P.6参照)

和田氏をご本人が関わってこられた番組「おはようパーソナリティー 中村鋭一です」から「サンデープロジェクト」など我々も一度は聴いたり、観たりした番組の表と裏のお話をされました。特に「サンプロ」に和田氏が紳助さんを起用した当時のエピソードは聴かれた皆さんの中でも記憶に残っておられる事と思います。

紳助さんは能勢に7000坪の家を持っていて、その家に和田氏が招かれて居る時に、そこへ「自殺をしようと思っている。その前に紳助さんにどうしても逢いたくて…」と訪ねて来た人と紳助さんが30分ぐらい話し合っ、て、本人が「もう一度頑張ってみる」と明石まで自転車を漕いで帰っていった話など、人気者にも裏では大変な事があるのだなあとと思われるそうです。

テレポリティックス（TVに影響される政治）の光と影についても、たとえTVに関わる人間は功績を誇る事は慎み、批判を謙虚に受け止めたいとのお話でした。

河内厚郎氏との対談では「タレント化する女子アナ」・「新聞対TV」・「スキャンダルの報道価値」など興味のあるお話を楽しく聴かせて頂きました。

第2部は朝日アナウンサーの上田慶行氏（67回）の司会で、ノボテル甲子園の料理を、ご寄贈賜りました日本酒「白鹿」やサントリーのビールとウイスキーで味わい、楽しい懇親の場を持ちました。

ホームカミング学年は34回と59回生でそれぞれ記念品が配られました。

また、今回の企画・実行に当たって貰った当番学年は54回生でした。吉井・湯川・橋本君など精力的に頑張ってくれました。

「無料会員制度」が廃止された最初の総会でしたが、特に問題はなかったと認識しております。2部の会場設定で椅子席の配置と立食席との対比に問題（違和感）を感じたところのご意見があり、来年度の課題と考えております。

3. 会務運営委員会

*平成14年度の活動内容

同窓会財政の健全化、安定化の為の施策として下記

の2点を重点的に論議するよう年度初頭の会長からのご指示を受けて、当委員会は年度内に7回の委員会を開催し委員各位の熱心なご論議の結果、

- ① 会員総会の無料会員制については、常務理事会、役員総会のご承認を経て、夏期の総会からこれを廃止いたしました。
- ② 新卒生も終身会員を選択できる制度の導入につきましては、これも常務理事会、役員総会のご承認を得ましたので、平成16年2月に卒業する生徒から実施に入ることとなり、年内には関係方面にご説明をする予定になっております。

*平成15年度の活動内容

本年度につきましては、前年度に引き続き財政のさらなる健全化、安定化の施策を探りながら、昨年度に導入した新制度の実効を検証して行く必要があります。また、前年からの懸案になっております「同窓会として母校にどのような貢献ができるのか」という課題に取り組んでおります。ほんの一例ではありますが、実社会の種々の分野で活発に活躍され、また現在も活躍されておる本校卒業生の業績、作品、著作等を総点検し、いわば「甲陽アーカイブ」ともいうべきデータベースを今のうちに作りあげてはとの案もあります。その節には同窓生の皆様からも広く情報を頂く事が必要となりますので、何分のご協力をお願いしたいと思います。

4. 会員名簿編纂委員会

15年度版・新会員名簿の発刊は、この12月18日に会員名簿購入予約者に対する発送をもって一応は完了いたしました。

今後の作業は、誤掲載の訂正とお詫び、更に誤字等の訂正作業と正誤表の作成が残っております。これらは16年3月末を目処に、訂正・正誤表とお詫びの文書を、購入されました同窓生の方々に送付をすることをもって、新会員名簿の編纂・発刊作業を終了させていただきます。

振り返れば14年後半に、会員名簿編纂委員会（35名）を編成し、困難且つ煩雑な編纂作業を開始いたしました。同窓生はじめ関係者の皆様の親身になってのご協力と、暖かいご援助のお陰をもちまして、ここに新会員名簿をお届け出来ましたことに、深甚なる感謝と御礼を申し上げます。

特に、会員名簿発刊の一助として、同窓生の皆様方に広告掲載のお願いを致しました。現下の厳しい社会・経済状況の中で、当初に予定していました広告目標額・700万円（前回の広告協賛額）が達成できるか不安でありました。ところが今回も目標額に近い684万円（169件）の広告協賛を頂戴いたしました。また、会員名簿の予約販売も、前回は約1,500冊と聞いていましたが、今回は2,977名（15年12月末・現在）の方々の予約購入の申し込みがありました。これらは、会員名簿の編纂に携わりました者にとって望外の喜びであります。

これらにより、会員名簿の編纂・印刷等を外部の㈱リ

オスコポーレーションに委託いたしましたことによる、同窓会への還元金は2,435,249円となり、この2月末に入金となります。

ここに、深くお詫びを申し上げなければならないことがあります。初期データの入力ミスで、お元気にご生存されているにも係わらず、物故者欄に誤掲載されました方が5名もおられます。また、お名前が誤字で掲載された方が1名おられます。現時点ですでから、今後もミス等の掲載が発見される可能性があります。これらにつきましては、現在厳正に再チェックの途中でありまして、後日、正確な訂正・正誤表とお詫びの文書を発送させていただきます。

最後になりましたが、会員名簿編纂委員会の委員の皆様には、ご多忙中貴重な個人のお時間と労力を賜りましたことに敬意を捧げ、心からの感謝を申し上げます。

3 平成15年度・一般会計の収支状況（平成15年12月末日現在）について

*収入の部

P.10に掲載の「平成15年度・12月分収支計算書」に記載の通り、会費収入につきましては、年会費・終身会費とも想定予算金額を上回る納付収入となっております。これは同窓会に寄せる皆様方のご期待と受け止め、今後とも同窓会活動の充実に、一層の努力を傾注することを誓います。

その他の収入につきましても、3月末の決算時までには、想定予算金額を確保するよう頑張る所存であります。なお、会員名簿関係予算につきましては、2月中には約245万円が入金の予定であります。

*支出の部

支出の全般につきましては、12月末現在で概ね予算の範囲内で推移しております。同窓会の資金は、同窓会全員の貴重な財産であります。今後とも厳しいチェック体制と支出経費削減策をとり、経費節減への努力を怠りなく進めていきたいと願っています。

以上の通り、平成15年12月末日までの会務報告を申し上げます。

（副会長 有田和男 31回）

●平成15年度 12月分収支集計表●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	12月分	累計4-12月分	予 算 額	科 目	12月分	累計4-12月分	予 算 額
会 費	148,000	4,539,500	9,200,000	人 件 費	308,280	1,616,360	2,116,000
※年 会 費	41,000	1,969,000	1,200,000	※月 手 当	128,000	1,152,000	1,536,000
※終 身 会 費	107,000	2,570,500	2,500,000	※夏 冬 手 当	16,000	260,000	300,000
※新卒入会金	—	—	600,000	※通 勤 費	20,280	204,360	280,000
※新卒年会費	—	—	1,400,000				
※新卒終身会費	—	—	3,500,000	交 通 費	2,380	30,370	200,000
名簿委託収入	—	0	1,000,000	需 要 費	25,993	356,653	730,000
名簿販売収入	—	0	0	※通 信 費	24,353	312,803	600,000
名簿広告収入	—	0	1,000,000	※事務用消耗品費	1,640	43,850	80,000
				※備 品 費			50,000
会報広告料	0	40,000	40,000				
総会会費収入	—	860,000	70,000	会 議 費	300,646	2,645,167	2,550,000
利 子 収 入	0	1,091	20,000	※会員総会費	—	1,619,621	1,000,000
				※役員総会費	111,636	369,854	300,000
雑 収 入	—	50,000	0	※理事会費	—	39,270	350,000
寄 付 金	—	40,000	0	※委員会費	21,160	448,572	600,000
				※懇 談 会 費	167,850	167,850	300,000
収入合計	148,000	5,530,591	11,960,000				
				事 業 費	0	1,998,278	3,640,000
基本金解約	—	—	0	※甲陽だより	—	534,345	1,200,000
				※郵 送 料	—	793,504	1,400,000
繰 越 金	—	3,728,981	3,728,981	※振替用紙代	—	60,900	120,000
				※封 筒 代	—	53,130	120,000
合 計	148,000	9,259,572	15,688,981	※記念品代	—	436,399	600,000
				※母校後援費	—	120,000	200,000
◎平成15年12月末日現在 現預金残高明細				雑 費	22,560	167,815	350,000
*三井住友銀行(普通預金)	579,243円			※校 内 志	20,000	40,000	50,000
*郵便局(普通預金)	313,670円			※慶弔その他	—	23,748	100,000
* // (振替通知票)	63,060円			※振 替 料	1,720	73,170	100,000
*三菱信託銀行(普通預金)	1,273,612円			※その他 雑経費	840	30,897	100,000
*手 元 現 金	215,544円						
合 計	2,444,929円			支出合計	659,859	6,814,643	9,586,000
◎平成15年12月分収入件数の合計と累計				新卒名簿購入費	0	0	1,400,000
科 目	件数	累計		予 備 費	0	0	4,702,981
寄 付 金	0件	2件		支出総計	659,859	6,814,643	15,688,981
年 会 費	18件	849件					
終 身 会 費	5件	130件		収入総計	—	9,259,572	—
名 簿 代	0件	0件		支出総計	—	6,814,643	—
広 告 費	0件	2件		翌月繰越金	—	2,444,929	—
総会会費	0件	255件					

(単位：円)

●平成16年度・予算書●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	15年度	前 年 度	差 引 額	科 目	15年度	前 年 度	差 引 額
会 費	9,200,000	8,000,000	1,200,000	人 件 費	2,116,000	2,116,000	0
				※月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
※年 会 費	1,200,000	1,500,000	△300,000	※夏 冬 手 当	300,000	300,000	0
※終 身 会 費	2,500,000	4,500,000	△2,000,000	※通 勤 費	280,000	280,000	0
※新卒入会金	600,000	600,000	0				
※新卒年会費	1,400,000	1,400,000	0	交 通 費	200,000	100,000	100,000
※新卒終身会費	3,500,000	0	3,500,000				
				需 要 費	730,000	800,000	△70,000
名簿委託収入	1,000,000	0	0	※通 信 費	600,000	600,000	0
名簿販売収入	0	0	0	※事務用消耗品費	80,000	100,000	△20,000
名簿広告収入	1,000,000	0	0	※備 品 費	50,000	100,000	△50,000
				会 議 費	2,550,000	2,900,000	△350,000
広報広告収入	40,000	200,000	△160,000	※会員総会費	1,000,000	1,200,000	△200,000
				※役員総会費	300,000	300,000	0
総会会費収入	700,000	600,000	100,000	※理事会費	350,000	400,000	△50,000
				※委員会費	600,000	700,000	△100,000
雑 収 入	0	0	0	※懇 談 会 費	300,000	300,000	0
				事 業 費	3,640,000	3,640,000	0
利 子 収 入	20,000	20,000	0	※甲陽だより	1,200,000	1,200,000	0
				※郵 送 料	1,400,000	1,400,000	0
寄 付 金	0	0	0	※振替用紙代	120,000	120,000	0
				※封 筒 代	120,000	120,000	0
基本金解約	0	0	0	※記念品代	600,000	600,000	0
				※母校後援費	200,000	200,000	0
収入合計	11,960,000	8,820,000	3,140,000				
				雑 費	350,000	400,000	△50,000
前年度繰越金	3,728,981	6,795,192	△3,066,211	※校 内 志	50,000	50,000	0
				※慶 弔 費	100,000	100,000	0
	15,688,981			※振 替 料	100,000	100,000	0
収入総計	15,615,192	73,789		※雑 経 費	100,000	150,000	△50,000
				支出合計	9,586,000	9,956,000	△370,000
				新卒名簿購入費	(1,400,000)	0	1,400,000
				(支出合計)	(10,986,000)		
				予 備 費	4,702,981	5,659,192	△956,911
				支出総計	15,688,981	15,615,192	73,789

(単位：円)

* お 詫 び *

会員名簿編纂委員会

委員長 有田和男

この度の新会員名簿の発刊にあたりまして、あつてはならない重大なミスを行いました。お元気にご活躍中にも係わらず、初期データの入力ミス等で、物故者欄にお名前を掲載してしまいました。その原因の究明を現在委託先のリオス側と行っており、その責任の所在を明確にする覚悟でおります。ここに深くお詫びを申し上げ、その訂正をさせていただきます。本当に申し訳ありませんでした。

下記の5名の方々は、お元気にご活躍中であります。謹んでご訂正を申し上げます。

- ・22回生・檀野 譲様
- ・76回生・門田将之様
- ・76回生・西村元一様
- ・78回生・門田和之様
- ・83回生・木羽滋俊様

*上記5名の方の現住所・電話番号・勤務先等につきましては、若し必要がありましたら、同窓会事務局までお問い合わせを頂きたいをお願い申し上げます。

*新会員名簿について、他に誤掲載・掲載ミス・誤字など、あるやも判りません。現在、再調査中でありますが、お気づきの事などがありましたら、同窓会事務局まで、ご一報を頂ければ幸甚であります。

●終身会費・各回別納付金額設定表●

回 生	金 額	回 生	金 額	回 生	金 額
1回	10,000	33回	10,000	65回	25,500
2回	10,000	34回	10,000	66回	26,000
3回	10,000	35回	10,500	67回	26,500
4回	10,000	36回	11,000	68回	27,000
5回	10,000	37回	11,500	69回	27,500
6回	10,000	38回	12,000	70回	28,000
7回	10,000	39回	12,500	71回	28,500
8回	10,000	40回	13,000	72回	29,000
9回	10,000	41回	13,500	73回	29,500
10回	10,000	42回	14,000	74回	30,000
11回	10,000	43回	14,500	75回	30,000
12回	10,000	44回	15,000	76回	30,000
13回	10,000	45回	15,500	77回	30,000
14回	10,000	46回	16,000	78回	30,000
15回	10,000	47回	16,500	79回	30,000
16回	10,000	48回	17,000	80回	30,000
17回	10,000	49回	17,500	81回	29,000
18回	10,000	50回	18,000	82回	28,000
19回	10,000	51回	18,500	83回	27,000
20回	10,000	52回	19,000	84回	26,000
21回	10,000	53回	19,500	85回	25,000
22回	10,000	54回	20,000	高商・1	10,000
23回	10,000	55回	20,500	高商・2	10,000
24回	10,000	56回	21,000	高商・3	10,000
25回	10,000	57回	21,500	高商・4	10,000
26回	10,000	58回	22,000	機械・1	10,000
27回	10,000	59回	22,500	機械・2	10,000
28回	10,000	60回	23,000	造船・1	10,000
29回	10,000	61回	23,500	造船・2	10,000
30回	10,000	62回	24,000	工業・1	10,000
31回	10,000	63回	24,500		
32回	10,000	64回	25,000		

※79～85回は前納年会費以外に上記の金額となります。

(単位：円)

会員だより

15回 同窓会

平成15年11月21日、梅田第一生命ビルB-2 ニュートウキョウにて甲陽中学15回生同窓会を開催いたしました。出席者は6名でした。

年に1回の同窓会を出来る限り盛大なものにしたいと思うのは私の願いではありますが、80歳代半ばのクラスメートに集って頂く事は、既に可能の範疇を逸脱している事を痛感して居ります。出席出来ない諸兄の幸運を祈ると共に、出席してくれる僅かな方々とは今年も又、語り合える幸せを持ち続けたいと思って居ります。



写真後列左から
湯原 真、
落合 博、
鈴木貞雄、
西村祝善、
日野茂一、
高垣雄二郎

(落合 記)

18回 山桜会

山桜会は昭和14年（1939年）3月に卒業、1年から5年まで故山田在夫担任の桜組の会である。昭和16年の第1回クラス会に始まる会の記録ノートが貴田君の元に保存されている。これはクラスの記録としてのみならず学校史の貴重な資料といえる。このところほとんど毎年クラス会をしており第13回は、平成15年10月21日、JR芦屋駅ビル5階「江戸川」で正午から3時間、貴田、青山、富田（写真 後列左より）清水、前田、森本（前列左より）が集まり時の経つのも忘れて歓談した。

(森本 記)



21回 第31回 橘会

平成15年11月2日（日曜日）、少し曇っていましたが、11月としては暖かな一日、第31回目の橘会を例年通り、宝塚市逆瀬川の「宝仙花」で開催しました。今年は一階の椅子席にしました。有馬温泉「中の坊瑞苑」の梶木剛常務が毎年差し入れて下さる銘酒「梅錦」、今年も昨年同様、たくさんに頂戴し、その上追加分のビールやお酒までご馳走になり、一同感激いたしました。開催に先立って、この2年間めでたく無事故であったことなど、事務的な報告のあと乾杯、それぞれが近況報告を兼ねて歓

談いたしました。

入間田君撮影の写真は前列左から井川 登・比留間敏男・森岡甲子男、そのうしろ筒井潤、後列樋口達彦・林信男・羽間重光・井本幸雄・入間田謙佑・濱口博章の10名です。

「宝仙花」を会場にした平成8年以来、幸にも天候に恵まれ、常務の梶木君の御好意で随分サービスして下さいますが、駅から少し遠いので、第32回目の橘会は、平成16年11月2日（火曜日）、場所はJR芦屋駅前のホテル『竹園』と決定しました。一年先の予定をお願いいたします。幹事は引き続き私がさせていただきます。

(濱口 記)



27回 関ベ動員学徒同窓会

開学86年の校史を彩どる母校同窓会の中でも私達第27期はユニークな存在といわれる。太平洋戦突入の翌昭和17年に入学、終戦後に卒業という軍国日本の政策に翻弄された世代であったからでもある。

3年生の初夏、学徒動員令によって5クラス250余名は神戸製鋼、阪神電車、関西ペイントと三分隊に分割されて1年3ヶ月を日給1円足らず（但し昼食付き）の臨時工員として働かされた。更に戦災疎開による転校や復学、戦中戦後の学制改革で卒業年次までバラされた。

必然的に同窓会も級とか同期ではなく、動員先ごと。関ベ隊の初会は36年ぶりの71年。白髪や禿頭がちらついていた。会場も料亭ホテルではなく、会社の保養施設借用が多く、動員先の工場で記念植樹や恩師ならぬ元工場長や職長をお招きしたら新聞社会面のトップとなった。

今回の関ベ会はバラつき卒業となった同窓を名簿に整理収録して頂いた中島久先輩（元甲陽学院教頭）をお招きして11月21日、馴じみの御堂筋日生会館貴賓クラブで開いた。

同窓親睦だけでなく阪神震災時、自ら被災者となりながら救援見舞金を率先実効した渡辺章吉君が昨今鬼籍入りの旧友に黙祷を捧げた後、中島先輩持参のビデオ「甲陽の今昔」を観て母校の顔在ぶりを再確認する。

「今や高校教育は理念を持つ私学しかできない。その筆頭は甲陽だ」と喝破した同先輩、「これからは孤独に耐え、亦孤独をも愛する余生を送らんか」と望月世話人代表。

ワイワイガヤガヤ、同じ釜のメシ仲間同士の談笑のうち「来年から夏の定例同窓総会で27期のテーブルを確保できるようご出席再会を」と松原君の提案を決議、校歌に「花も蕾の…」学徒動員歌を大合唱して散会した。

(参加者は井上、上田、岡田、河上、片山、金子、傍島、武田、中西、原田、前浦、松原、毛利、望月、来賓中島久元教頭)

(原田 記)

38回 同窓会

甲陽学院38回生の同窓生が、平成15年11月29日、私たちの学舎のあった、ノボテル甲子園で開催されました。ご来賓として、吉井良峯先生、中島久先生をお迎えし(村上千秋先生、神田郁夫先生からはお言葉を頂きました)、出席者46名(他に、寺本康二君の御寄付とりハバリ健闘中の写真での特別参加あり)という盛況振り、和やかで楽しい同窓会となりました。

会は、記念写真の撮影(すぐに現像、焼付にまわし、お帰りに持って帰って貰いました)、物故者への黙祷のあと、幹事の挨拶、ご来賓の先生方の御挨拶、乾杯という順に進み、開宴となりましたが、このところ毎回行われていたアトラクション、西田武史君の令嬢で元宝塚スター華陽子さんの歌と踊りが、残念ながら？ご本人のご結婚ということでできなくなり、アトラクションなしということとなりました。すると、中島先生が御挨拶の折り、「俺がアトラクションをやる」とおっしゃって、出席者一同を中学A組、B組、C組、高校入学組に分けて下さり、我々一同なるほど中学校の時は、こういう連中と一緒にだったんだとあらためて実感させられ、なかなか有意義なアトラクションとなりました。

大部分の方が第一線を引退され、時間的な余裕もでき、青春を懐かしむ気持ちも強くなることもあります。幹事の皆様のご努力により、住所不明者を極力減らす事ができたこと、Eメールの利用によって、開催予告を早めに行えたことが盛会に繋がったのでしょう。ただ、私どもの世代は、戦後の欠食児童時代の影響からか、物故された方が多いのは残念です。また、体調を崩され今回御出席頂けなかった方もあります。2年後の次回同窓会は、ますますの盛会にしたいと思います。健康に十分留意され、多くの方のご参加が得られる事を祈っています。

幹事：足立昌之、酒井 豊、中村 誠、仁井清喜、樋口邦和、久松培夫、福地保長

次回幹事：有田健一、尾本一毅、平野雅士、福地保長、細田純一郎、堀口知義、望月章雄

(福地保長 記)



48回 学年同窓会

去る7月16日(水)18時30分からいつもの本町にある大阪ガス備後町社員クラブで48回卒の学年同窓会を開催した。4年前から毎年7月に開いており、今回も中島久先生、静利一郎先生のお二人をお招きし、総勢24名の出席を得た。

冒頭、先月26日に亡くなった坂本 裕君、2年前の本木隆夫君、学生時代に亡くなった居谷善文君の3名の方のご冥福を祈って、1分間の黙祷をささげた。

中島先生からは「54～55歳の君たちは最後の一踏ん張りの時期である」との励ましと、最近の諸事件に見られる社会の乱れを嘆き、我々を含む大人社会への注文というかある種の期待の言葉を戴いた。静先生は9月に予定の懐かしい甲関戦で10年ぶりに甲陽が勝利する可能性大との明るい見通しをご披露され、心身ともに健康であることの大切さをご自身の生活に基づきながら話して下さい。後はクラス単位で各自1分間スピーチに移ったが、健康や趣味の話、孫や老後の話と皆に共通する話題が飛び交った。

なお、この会で学年のメーリングリストを作ることが合意され、既に上村哲朗君を管理者にして30名位でスタートしています。オープンなリストですので、まだ未加入の48回生の方は、私(池田)または、上村君までお申込み下さい。

(池田 記)



62回 新規開店！ミニ同窓会

62回卒の同窓会はこれまで、2～3年に1回(次回は2006年1月)行ってきましたが、我々も40歳を超え中学・高校時代を懐かしむ年代になった(?)ことから、今年度から忘年会を兼ねてミニ同窓会を行うことにしました。前回の同窓会時に電子メールアドレスを知らせて頂いていた諸君に対しメールにて呼びかけたところ、11月21日の当日は7名の参加を得て、当時の甲陽のことから子供のことまで深夜まで大いに盛り上がり(写真)、その場で2004年年末の継続開催が決まりました。連絡費用などの理由からミニ同窓会はメーリングリストによる案内のみを考えております。日常的な交流や簡易な連絡方法の確立の観点などからもメーリングリストの整備を行っておりますので、本記事をご覧になった同期の諸君は是非<http://www.watase.info/>にアクセスし、ホームページから渡瀬まで連絡先電子メールアドレスをお伝えください。



JR 甲陽会 発会

JR 西日本には、現在20名を超える卒業生が在籍しております。このたび、甲陽学院の前同窓会長で国鉄・JRを通じ当社と深い関係をお持ちである高垣雄二郎氏（15回）のお呼びかけにより、「JR 甲陽会」を発足いたしました。

平成15年10月7日、第一回の会合を大阪駅前「ニュートーキョー」特別室において開催し、当社在籍の甲陽卒業生のほぼ全員が出席しました。和気藹々とした雰囲気のもと、仕事の話とともに学生時代の思い出を各自思い思いに語らいあうことができました。また、普段の仕事上で、半分他人行儀（あるいは喧嘩腰？）で向かい合ってきた者同士が、今回の集まりで、実は同窓であったことが発覚し、一瞬凍りついた雰囲気も笑いと言らいの中で煙に巻かれていくといった“ハプニング”も会場のあちらこちらで見られ、大きく盛り上がりました。席上、河内 清氏（48回、現JR西日本常務執行役員建設工事部長）が満場一致で会長に選出され、また会長より高垣雄二郎氏が同会の名誉会長に指名され、ここに華々しく発会することができました。

当社も昭和62年の国鉄分割民営化・会社発足以来、お蔭様で概ね順調に発展することができました。これからご利用の皆様、国民の皆様のご期待に沿えるサービスを提供できるよう、がんばってまいります。

(73回 内山 記)

茨木甲陽会 ゴルフ懇親会

社団法人 茨木カンツリー倶楽部の社員で、且つ、吾が同窓会会員の有志が、平成15年4月26日に、80年の歴史ある東コースで、ゴルフ競技と懇親パーティを開きました。

同窓会の平田 豊会長を含む9名の仲間が春陽の土曜日に楽しい一日を過ごしました。

これを第1回「茨木甲陽会」とし、次のことを全員で決めました。

①毎年、春秋に開く。②多くの仲間をお誘いし、より楽しいものとする。

第2回は、10月4日(土)、10名のご参加で実施しました。現在登録者数は予定者を含め19名です。13回卒から56回卒までと幅の広い年齢構成が楽しさを倍加している様です。第3回は平成16年4月24日(土)と決めています。新会員の入会を切望しています。

注：希望者は下記へお知らせ下さい。

河崎襄二（会長）☎078-431-7188

宮武 毅（幹事）☎0727-28-0631

(河崎 記)



コラム

お盆や年末にまると、中学高校と一緒にすごした浅野君から電子メールがはいる。「梅田の新阪急ホテルのロビーで○日の午後5時にあつまれ」と言う内容だ。40代になった頃からこの慣例が続いている。北前、武田、平原、荒井、こういう連中が集まる。阪大教授をしている荒井君とは、小学校の頃、岡本駅近くの塾に通っていた頃からの知り合いである。

仕事の関係でも、甲陽の繋がりがある。20年以上も下の後輩がやってくる。進学のために上京した時から、東京砂漠で生き抜くために必死に身につけた「標準語」をたちどころに放棄し、神戸弁を駆使

する。

今年から大学生になった娘がアルバイトで著名な大手会社が入ったビルの中で、夏休みの間中、会議をしている人達にコーヒーを持っていくサービスをしている。そういえば、あの会社には同級生がいた。日経に彼の異動の記事も出ていた。まさか、会議の最中に「お父さんが宜しく…と言ってました」とは言い出しづらいだろうから、エレベーターの中でも遭えば、挨拶でもしとけ…と娘をけしかける。電子メールで彼に娘のことを伝えようとも考えたが、結局、やめてしまった。

身の回りにいろんな「甲陽」がある。

中島 一浩 (52回)

徳永彦一先生逝去



母校で長くご教鞭をとられた徳永彦一先生が、昨年7月24日に逝去されました。79歳でした。謹んでご報告いたします。徳永先生は、昭和39年から平成3年まで、母校で数学の授業を担当されました。

徳永先生の思い出

志 方 敬 育 (51回)

甲陽学院での徳永先生の思い出は幾何の授業を抜きにはできない。私たち甲陽の51回生は昭和39年に入学、1年生の夏休み明けの2学期から先生は数学担当として県立西宮高校から移ってこられた。その時からいわゆる初等幾何を教わったのであるが、その進捗と問題演習の困難さは未だに忘れられないものがある。公理や定理について一通りの説明を板書され、我々に写させたその次の時間から早速問題演習に移るのであるが、解答を板書しなければならず、出来なければ立ちんぼとなるので、前日には予習に何時間もかかるという始末であった。しかしながら、そのように苦労した幾何については、今でも少しは覚えているようである。

先生の数学のカリキュラムに対する考え方は非常に明快であり、甲陽における6年間の学習計画をよく話された。また、定期試験では我々には困難な問題でも平気で出題され、その結果、平均点が下がってしまったために下駄を履かせていただいたことも度々あった。今から思えば、先生自身我々のレベルがどの程度のものなのかよくご存知であったのだろう。

卒業後はクラスの仲間と度々自宅の方へお邪魔して、

ご馳走になったものである。夫人にもご迷惑をおかけしつつ、先生は柳川出身ということで魚については一家言持っておられ、ご自分で料理された魚を私たちが平らげるのをニコニコしながら眺めておられたものである。その後、私たちが社会人になってからは、趣味である写真の技術を活かして結婚式の写真を撮っていただいた者も大勢いる。また、クラス会を各地で開催するのを楽しみにしておられ、先生を囲んで酒を酌み交わすという機会を毎年設けてきたが、昨年はついに先生も病を得られ、1月に開いたクラス会では、出席は困難とのことで、急遽クラス会の出席者がお見舞いに行かせていただいたのが、先生とのお別れになったようである。

40年に亘り、勉強に始まり、仕事や人生、家庭のことなど、時々の苦労や悩みについて相談に乗っていただいた先生ももう既になく、改めて先生の歩んでこられた途に思いを馳せ、我々自身時代の試練に立ち向かう勇気を持ち続けたいと考えている。

今は縁あって先生に教えていただいたことを有難く思い、先生のご冥福を祈るばかりである。

訃報 池田成一事務長

昭和42年から53年まで甲陽学院高等学校の事務長を務められました池田成一氏が1月18日に逝去されました。謹んでご報告いたします。



訃報

(平成16年2月29日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

藤田 敏明氏 (機械2)	03年5月30日逝去	中井 正氏 (高商4)	01年1月3日逝去	松原 健氏 (57回)	03年7月19日逝去	山口 昭氏 (57回)	03年10月27日逝去	納谷浩一郎氏 (35回)	03年7月7日逝去	上枝 昭造氏 (32回)	03年6月3日逝去	山本 秀樹氏 (27回)	99年11月1日逝去	北村 栄造氏 (24回)	99年2月20日逝去	高橋 源二氏 (23回)	01年10月4日逝去	村田 滋氏 (19回)	03年5月7日逝去	渋谷 彰氏 (19回)	98年7月19日逝去	五十嵐治男氏 (19回)	03年8月23日逝去	河内 忠雄氏 (18回)	04年2月22日逝去	香川 康氏 (16回)	00年4月30日逝去	小松龍太郎氏 (16回)	03年1月15日逝去	吉松 寛彦氏 (13回)	03年11月6日逝去	永吉 元氏 (13回)	03年7月10日逝去	上西 隆夫氏 (12回)	01年8月5日逝去	今里 忠良氏 (12回)	03年8月22日逝去	藤原 陸彦氏 (11回)	03年7月10日逝去	武内 武一氏 (11回)	03年5月20日逝去	伊丹 正彦氏 (11回)	03年5月9日逝去	宮崎 知男氏 (10回)	02年3月21日逝去	鳥山陽太郎氏 (10回)	95年8月1日逝去	武川 吉男氏 (10回)	03年3月24日逝去	赤井 常隆氏 (8回)	03年9月18日逝去	吉田辰之助氏 (2回)	00年10月12日逝去
--------------	------------	-------------	-----------	-------------	------------	-------------	-------------	--------------	-----------	--------------	-----------	--------------	------------	--------------	------------	--------------	------------	-------------	-----------	-------------	------------	--------------	------------	--------------	------------	-------------	------------	--------------	------------	--------------	------------	-------------	------------	--------------	-----------	--------------	------------	--------------	------------	--------------	------------	--------------	-----------	--------------	------------	--------------	-----------	--------------	------------	-------------	------------	-------------	-------------

(旧姓平井)

告 知 板

→ご注意← ☆会員名簿・広告掲載の勧誘☆

- * 同窓会が関知しない第三者が、「甲陽学院同窓会」の名称を使い、相も変わらずハガキ・電話・メール・訪問などして、現住所・勤務先・出身校・電話番号などの照会・名簿の購入依頼・広告の掲載依頼を行っているようです。
- * 皆様には、依頼先の名称・住所・電話番号などをご確認を頂いて、慎重な対処をお願いします。同窓会からの依頼は、「甲陽学院同窓会」の名称で、責任者の氏名・役職と何回卒と記載しています。その所在地は、甲陽学院高等学校の住所と同じです。
- * 何かご不審な点がありましたら、必ず同窓会事務局まで、内容のご確認をお願い申し上げます。

☆「ノボテル甲子園」の優待券の発行☆

- * 「甲子園都ホテル」が「ノボテル甲子園」に生まれ変わり、その名称が変更となっています。それに伴い新優待券を発行致しました。割引率・条件などは以前と同様であります。
- * 同ホテルをご利用される方で、新優待券の追加をご希望される方は、ご面倒をお掛けしますが、事務局までお電話・FAX・Eメールで、ご連絡を頂ければ、直ちにお手元まで郵送をさせていただきます。

☆ 新卒者から終身会費制度発足 ☆

今年春に高校を卒業した85回生から、卒業時点で終身会費を納めることを選択できるようになりました。これに伴い、卒業後7年以内の方（卒業時に7年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになりました。その際の金額はP.10の表をご覧ください。

☆ ーお願いー 住所変更の届け ☆

- * 会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- * その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- * 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

☆理事・評議員の皆様へ☆

- * 理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立ってきました。更に理事・評議員が選出されていない卒業回、また定員不足の卒業回も見られます。
- * 同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は重要な役割を担われており、同期の方々の代表でもいられます。会則上、理事・評議員は同期の方々が適宜の方法で選出をされることになっています。よって理事・評議員が空白の卒業回、また定員不足の卒業回の方々は、同期の方々と話し合いをされて、その更新・補充を事務局までお届けをお願いします。
- * 選出の人数は、理事は、同期（卒業回）から1名。評議員は、各クラスから1名（5名以内）です。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- * 次号・第70号は、7月下旬頃に発行を予定しています。
- * 「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- * 原稿の締切日は、5月15日です。

☆ 最近5年間に大学を卒業された方へ ☆

- * 最近5年の間に大学・大学院を卒業された方々の、現住所と就職先等の連絡漏れがあり、その確認作業に事務局として難渋しています。
- * この場合、高校卒業時の親元に連絡していますが、親元住所の移転も多く、これらの追跡調査に時間と費用と手間がかかります。必ずご連絡を下さい。
- * 同期の理事・評議員、又はクラスの幹事の方は、同期の仲間に移動があれば、事務局までご一報下さい。



甲陽学院同窓会会員のための

清 酒 白 鹿 酒 蔵 見 学 会

期 日：平成16年4月21日(水)

時 間：13：00～16：00

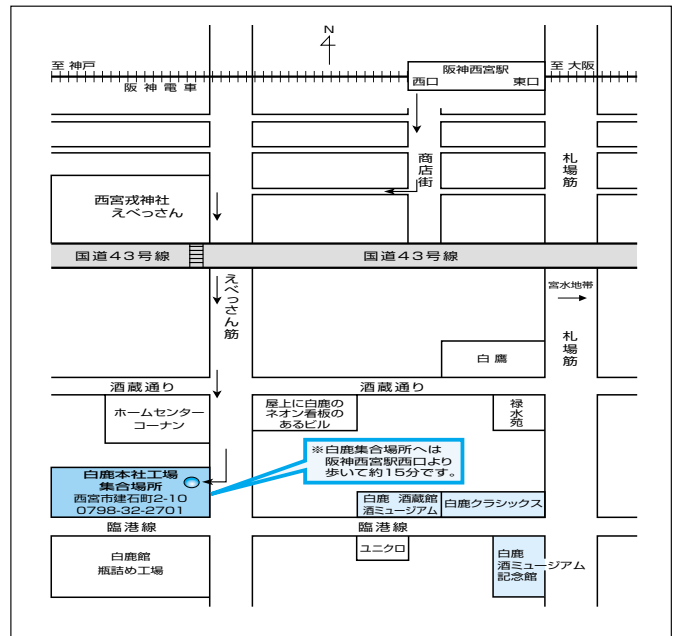
内 容：白鹿最新鋭の醸造蔵「六光蔵」見学、コモ巻き
実演見学、「白鹿館」瓶詰工場見学、メインは
懇談会で、きき酒と白鹿自慢の銘酒「山田錦」
や「純米大吟醸」などの試飲をしながら、お酒
に関する質問を受け付けます。最後に「白鹿酒
ミュージアム」の見学を予定しております。

集 合：白鹿本社工場 西宮市建石町2-10
(右地図参照) 電話0798-32-2701

定 員：先着50名様

申込先：甲陽学院同窓会事務局
〒662-0096 西宮市角石町3-138
電話0798-71-4888
(月・水・木・金 10時～16時)

※ご家族・ご友人と同伴でご参加いただいても結構で
す。



■あて名ラベルの記号の見方

平成16年2月29日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度

♪ 卒 1 1 1 1 1 0 0 終

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…15年度の
年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、下段に含まれる0の個数 × 1000円が、未納の年会費となります。
同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。
次の二つの例をご参照下さい。

♪ ♪ 卒 1 1 1 1 1 0 0 0 0 0 0

H10以降は未納です。
未納分をお納め下さい。

H15年分まで前納

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 卒 1 1 1 1 1 1 1

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、
H15年度まで前納しておられます。

⑬尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、
そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。



白鹿クラシックス
Hakushika Classics

西宮市鞍掛町(札場筋・臨港線交差点)
■定休日/火曜日

レストラン&カフェ
AM11:00～PM10:00
(ラストオーダー PM9:00)
明治時代の酒蔵を
シック&カジュアルな和空間に。
0798-35-0001

ミュージアムショップ
AM10:00～PM7:00
蔵元ならではの、
お酒にまつわるアイテムが大充実。
0798-35-0286

酒ミュージアム
白鹿記念酒造博物館
AM10:00～PM5:00
(入館は4時30分まで)
日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承。
0798-33-0008